



JEFが1961年(昭和36年)に設立されて2年後に60周年を迎える。理事会でもこれを記念した事業の準備を進めているところである。現代の数字の記数法は主として10進法であるので60年に比べて50年の方が大きな区切りと考えられことが多いが、人間の営みに基づいて考えれば現代でも主として時間の記法に使われている古来の60進法(12進法)とも関連している60年という年月は特別な意味を持つように思える。JEFのこの間の歩みはホームページにある「日本教職員バドミントン連盟(JEF)の歩み」に詳しく記載されている。この中にも記されているようにJEFとして全国組織が設立する以前にはその母体となる教職員や学生・生徒の競技に関する地方組織が設立されており、JEFに先立って60周年を迎えている。私が所属しているTEF(東京都教職員バドミントン連盟)は昨年に60周年、東京都高等学校体育連盟バドミントン専門部は今年、70周年を迎えている。

このような時期に自分とJEFとの関わりを振り返ってみれば、1995年(平成7年)に事務局を担当したことに始まる。この頃のほとんどの常任理事は設立から携わっていたメンバーであり、歴代の理事長もすべて常任理事として活動されていた。このため、何かわからないことがあってもすぐに教えを請うことができ、その由来、経緯についてまでも詳しく説明を受けることができたので大変ありがたかった。JEFは設立から40周年となる少し前であり、常任理事や地方で設立当時から関わって大会に出場している各地の会員も教職員の定年60歳を超える年代となっていた。当時すでに準会員の制度はあったので、定年後も登録、出場は可能になっていたが、これからはこの年代がより多くなっていくことが想定されていた。そこでこの年代の会員のために終身会員の制度と男子65歳以上種目の導入が提案され、実行された。また女子40歳以上種目も導入され、会員の希望にも応じて少しずつ年代種目を増やしていく方向は現在にも引き継がれている。

この間の大きな改革は1999年(平成11年)の派遣審判制度の導入である。それまでは、敗者審判制度で運営されており、1種大会として問題があるという指摘は以前からあった。導入には入念な準備と決断が必要であったが、担当者の努力や各地域連盟の協力を得て実施できたことは大きな成果であった。この制度は現在に至っても少しずつ改良が進められており、これからも会員の皆様からの協力をお願いする必要がある。

40周年記念としてルールの解説書である「バドミントン・100問集」を編集発行したことも大きな事業の一つであった。当時かなり評判となり、全国の連盟や個人からの注文が相次ぎ、日々発送に追われたことが思い出される。2004年(平成16年)まで事務局を担当したが、この間は毎年、役員として大会に派遣され、忙しい中でも各地域の連盟関係者の方々に対して親切に対応していただいたことも懐かしい。

最初に記したように2年後の60周年を迎えるにあたり、これもまた会員の皆様に協力をお願いすることが多々あると思われるので、よろしくお願ひしたい。

1959年(昭和34年)生まれで60歳となり、当時の先輩方の年齢に近づいた自分がこれからの方々にも少しでも引き継げるものがあればと考えるこのごろである。

巻頭言	目次
令和元年度総会資料	
総会議事録	
平成三十年度事業報告	
平成三十年度決算	
令和元年度事業計画	
令和元年度予算	
第五十八回大会資料	
今大会を顧みて	
レフェリー報告	
令和元年度表彰者一覧	
総合順位	
成績表	
団体戦トーナメント表	
個人戦トーナメント表	
第九回全日本教育系 学生大会要項	
表紙の人	
派遣審判員一覧／閑話休題	